

AEDの使い方など学ぶ

ゆるらの ガーデン スタッフらが方が一に備え

福知山市蛇ヶ端の福知山城憩いの広場・ゆるらのガーデンで14日、出店する店舗の関係者が胸骨圧迫やAED

(自動体外式除細動器)の使い方などを学ぶ講習会が開かれた。

ガーデン内には6月からAEDを1台常備しており、心肺停止の人が出た場合などに適切な処置ができるようにと、出店者協議会(家田哲士会長)が講習会を実施。店舗のスタッフら15人が参加し、福知山消防署から指導を受けた。

講習は一市消防防災センターからゆるらのガーデンまで、救急車が到着するのに5分程度かかる。人間は心臓が停止してから短時間で脳がダメージを受けて、放置すると意識が

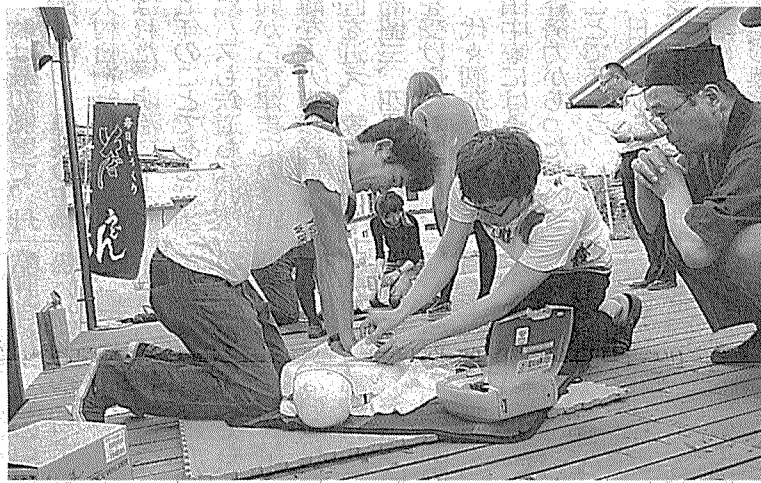
回復しなくなる。少しでも血液を脳へ送り続けることで脳のダメージを軽減できる」と、胸骨圧迫の必要性を説くところから始まった。

このうえで、参加者は人形を使って胸骨圧迫の仕方やAEDの使用方法を学習。AEDは音声案内に従って操作し、電気を流すパッドを貼る位置などを確認した。AEDを使う時も胸骨圧迫をし続けることが大切であることも学んだ。

このほか、のどに異物を詰まらせた場合の処置方法も実践し、強制的に咳をさせたりし

ても改善せず、意識を失って倒れた場合には胸骨圧迫やAEDの処置が必要なものも教わった。

同協議会の水野直己副会長は「たくさんの方が集まる場所なので、何かあった時にガーデンのスタッフ全員が対応できるようにノウハウを共有していきたい」と話していた。



AEDの使い方と胸骨圧迫の仕方を体得する参加者